

神奈川県

東海大学 ～人と自然、農の営みが響き合う、地域連携のかたち～

● 秦野市「農園ハイク」と室田ゼミの融合

- ・「農園ハイク」は、ハイキングと地元農産物の収穫体験を通じて、農業や地域の魅力を身近に感じてもらうことを目的に、2014年に始まった。
- ・2015年、この活動は、室田教授（教養学部人間環境学科）の研究テーマ「関係人口の創出と持続可能な地域づくり」と結びつき、大学との連携が本格化した。

● 農園ハイクでのボランティア活動

- ・農園ハイクは、はだの都市農業支援センター（市・J A・農業委員会の共同運営）が主催し、毎年2時期（6月・11月）、延べ3地区で実施されている。
- ・室田ゼミでは、3～4年生（今年度は23名）をボランティアとして登録し、センターからの要請に応じて、毎回必要な人数の学生を派遣している。

<見逃せないポイント>

センターは調整や広報、受付・資材準備を担い、登録学生から必要人員を受け入れる。このため、学生は現地での活動と交流に専念でき、費用負担も発生しない。

学生たちの農園ミッション
人とつながるフィールド体験



家族の農作業を手伝いながら、
畑で見つけた学びと交流



● 失われかけた棚田の再生

- ・ 秦野市の名古木（ながぬき）の棚田は、保全団体の手で、2002年より耕作放棄地からの再生が開始された。
- ・ 大学では毎年、5月の田の準備から9月の収穫まで、希望者の中から選ばれた30人の学生が棚田に挑む。
- ・ 栽培は、無農薬・無化学肥料で行われており、収穫量に応じて、参加学生にお米が分配される仕組み。

● 活動の成果

- ・ 農園ハイクに参加した学生からは「交流や発見が刺激になった」との声もあり、ゼミにも活かされている。
- ・ 棚田に参加した学生は、レポートで労働報酬を計算することで、生産コストを意識できるようになる。

● 今後の課題

室田教授が退官後も活動が継続できるよう、大学には体制整備と継承の仕組みづくりが求められている。

● 詳しい情報はこちら（ホームページ）



← 農園ハイク
(秦野市)

名古木の棚田
(神奈川県観光協会) →



「泥にまみれて、心も耕す」
世代を超えて棚田を守る人々



大学が関わることで、棚田は
環境について学ぶ実践の場に



★ 概要 ★

活動開始：2015年
メンバー：23名

活動分野：地域づくりボランティア、棚田保全
問合せ先：室田教授 <https://business.form-mailer.jp/fms/b76838b6287976>